

# マスクとアイガードについて

感染対策情報誌  
令和7年12月

目・鼻・口は侵入経路になりやすい

顔面を保護する防護具はマスク・アイガードが有効です

**サージカルマスク**：医療現場で使用されている医療用マスクのこと

【目的】・着用者の呼気中の微生物や飛沫を外に出さない  
・外部からの飛沫や体液の侵入を防ぐ

\*医療用マスクは一般の布マスクや不織布マスクよりも高性能で医療環境の感染防御を前提に設計されている

【構造】通常三層構造で作られている

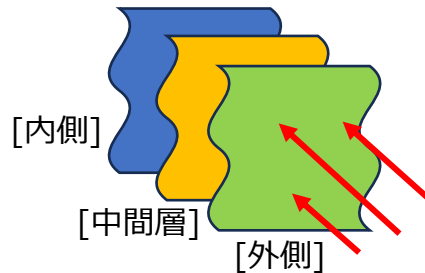
[外側]撥水層（飛沫・体液の侵入防止）

[中間層]フィルター層（微粒子・細菌を捕集）

[内側]吸湿層（呼気の湿気を吸収）

\*外側は「撥水性」内側は「吸湿性」があるため、表裏を間違えると性能が低下する！

【三層構造のイメージ図】



**N95マスク**：米国労働安全衛生研究所(NIOSH)が認定する粉塵マスクのこと

【目的】・主に空気感染・エアロゾル感染対策として使用する

“N95”とは「0.3 $\mu$ mの粒子を95%以上捕集できる性能」を意味する

## サージカルマスクとN95マスクの重ね付けが推奨されない理由

①密着性の低下	N95マスクは「顔面に密着」させることで性能を発揮する。下にサージカルマスクを装着すると密閉性が損なわれ、漏れが生じるため防護性能が低下する。
②呼吸抵抗の増加	マスクを重ねると呼吸がしづらくなり、長時間の装着が困難になる。呼吸抵抗の上昇は疲労・酸素欠乏の誘因になる。
③フィットテスト不適合	重ね付け状態ではフィットテストの結果が無効になる。NIOSHやCDCでは「N95は素顔に直接装着する」ことを前提としている。
④無意味な冗長性	N95マスク自体がサージカルマスクより高いPPEとバリア性を備えており、追加のマスクは性能向上にならない。
⑤廃棄・再利用時の交差汚染リスク	外側マスクを外す際に内側のN95マスクに触れて汚染が伝播する危険性がある。

**アイガード** \*眼鏡やコンタクトレンズは眼粘膜の曝露予防にはならない

目的	目の粘膜に血液や体液が飛散する恐れのある場合			目 鼻 口の粘膜に血液や体液が飛散する恐れのある場合
種類	ゴーグルタイプ	シールド交換タイプ	シールド付きマスクタイプ	フェイスシールドタイプ

再利用可能な製品は清拭消毒後、汚染や埃が付着しないように保管する

様々な種類があるため、用途に応じて組み合わせることが重要です